令和８年度志賀町農業活性化協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本協議会の範囲である志賀町においては、水田における耕作面積に対する主食用米の割合が 80%以上を占めており、依然として主食用米が本町農業の基幹作物となっている。

令和７年度の米の単価高騰を受け、同年度は水稲栽培が主流となりましたが、水田転作の状況としては、麦・そばの二毛作、大豆、飼料用米、加工用米、WCS 用稲、飼料用作物など、非主食用米による転作が定着し、転作作物の栽培面積が拡大している。

また、飼料用米や WCS 用稲の圃場を中心に、収穫後の堆肥散布の取り組み例も増えており、耕畜連携への取り組みも増加傾向にある。

一方で、収量および品質面には多くの課題があり、特に麦・そばについては近年の高温少雨等の天候不順により基準単収を下回る農家が見られ、生産力の向上が喫緊の課題となっていることに加え、近年、飼料用米は中山間地域の水田を中心に獣害被害が多発し、単収低下が顕著となっているため、電気柵等の設置を早急に進め、単収低下対策を急務としている。

担い手面では、高齢化率の上昇に歯止めがかからず、農家戸数の減少に伴う不作付け地の増加が見られるため、地域計画の作成による農地の集積に加え、若手担い手の育成や地域の中心となる経営体の確保が必要とされている。

今後の取り組みとしては、主食用米の生産基準数量内での最大限の作付け推進により需給の深掘り解消を目指すとともに、水田農業を輸出や加工品の原材料など新たな需要拡大が期待される作物の生産へと刷新し、その一環として、新市場開拓用米や加工用米、野菜などの高収益作物、麦、大豆について、実需者ニーズに応えた低コスト生産などの取り組みを支援し、生産拡大を図っていく。

２　高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当町では、令和 6 年に発生した能登半島地震の影響もあり、農家の高齢化や後継者となる若者の町外流出が進み、著しい過疎化が進行しています。小規模農家を中心に中間管理機構を利用して集落営農等への農地集積が進められているものの、担い手への農地集積率は令和 5 年 3 月 31 日現在で約 53%にとどまっている。

しかし、東増穂地区をはじめ、令和 8 年度までの計画に基づき毎年約 50 ヘクタールの農地基盤整備事業を実施することから、集積率の向上を図りつつ、非主食用米や高収益作物の導入を推進していく。

特に転作作物の収益力強化においては、主食用米と転作作物を組み合わせた 2 年 3 作の作付けを推進し、農家所得の向上と収量の増加を目指す。

また、当町には畜産農家が多いものの、近年は飼料用米、WCS 用稲、飼料作物などの飼料用作物の作付けが減少しており、「耕畜連携」（わら利用・資源循環）による取り組みの推進が課題となっている。このため、耕畜連携の具体的なビジョンを再検討し、飼料作物の作付け拡大や新たな資源循環の方法を模索することで、中山間地域等の耕作放棄地の増加抑制と耕種農家の所得向上を図っていく。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本町における水田の主たる経営形態は、水稲と水田活用米穀を絡めた交付金に依存した経営となっており、全耕地面積に占める水田の割合は約７割を占め、米への依存度が高い営農形態となっている。

このような状況に対し、中長期的に水田農業の構造改革を進めるため、これまでの水田活用米穀から、より収益性の高い園芸品目及び、低コストへの生産による作物等への導入を推進し、令和７年度までの３年間で２０ha の作付面積を設定し、構造の転換を図っていく。

また、遊休農地対策では、農業委員会が実施する「利用意向調査」を基に、各地域の生産組合及び JA 等、各関係機関と連携し、担い手となるべく地域計画の中心経営体が、利用権の取得、農地利活用が可能となるよう官民が連携し、農地情報を提供するなど、農地所有者と担い手耕作者間とのマッチングを進めることで、遊休農地化の増加率を縮減し、利活用率向上に取り組む。

なお、長期間畑作のままの圃場やビニールハウスの設置場所については、地図情報支援システムによる調査で現況を把握する。また、長期間水稲が作付けされていない水田においては、地域ぐるみで取り組むブロックローテーションの構築に努め、その他にも関係団体に畑地化促進事業等の情報提供を行う。

４　作物ごとの取組方針等

国の４つの改革を受け、地域・集落の担い手や農地など地域の実情を踏まえた上で、次の３項目を基本方針として、「担い手の育成」及び「水田フル活用」を進める。

１ 生産基準数量の範囲内で主食用米の作付けを推進
２ 麦、園芸作物等の産地戦略作物の作付け拡大、産地育成の推進
３ 非主食用米（飼料用米等水田活用米穀）の作付け推進

（１）主食用米

「うまい・きれい石川米づくり運動」を着実に推進し、需要に対応した良食味・良質米産地として評価を高めていくことが重要である。このため、本町の主力品種である「コシヒカリ」については、今まで以上に気象変動、特に高温障害に的確に対応することで、１等米比率の更なる向上を進める。

また、コシヒカリへの作付け偏重とならないよう拡大傾向にある業務用需要にも対応できる「ゆめみづほ」等２次銘柄の作付けを拡大するなど、生産基準数量の範囲内で需要に対応した生産を行う。

（２）非主食用米

非主食用米は、湿田など、麦・そばなどの畑作物の作付けが困難な地域においても取組が可能であり、現有の機械装備が活用できることから、品目毎の需要に応じて最大限に作付けを推進する。

ア　飼料用米

飼料用米はこれまで、主食用米の作付面積の減少に伴い生産拡大が図られてきたが、近年は飼料用作物の作付けが減少傾向にあることから、畜産農家の稲わら需要への対応が課題となっている。今後は、需要に応じた稲わら生産の推進と畜産農家・耕種農家の連携強化、担い手を中心とした団地化・規模拡大の促進、多収性専用品種の

導入による単収向上、耕畜連携の課題解決に向けた新たな取組の模索、主食用米とのバランスの検討方針に基づき、持続的かつ効率的な飼料用作物生産を推進する。

イ　米粉用米

米粉用米については、水田の機能を残したまま生産調整に取り組める点や復元田における水田クリーニング効果等メリットを生かし推進する。

ウ　新市場開拓用米

国内の主食用米の需要減少が続く中、需要がある新市場開拓用米（輸出用米、輸出用日本酒向け酒造好適米等）の生産拡大と安定的な供給体制を構築するため、複数年契約を推進し、取組定着を図る。

エ　ＷＣＳ用稲

WCS（飼料用稲）の作付けにあたっては、水田の多面的機能を維持しつつ、土地資源の有効活用と農地の環境保全を両立させることが重要である。復元田における水田クリーニング効果などのメリットを最大限活かし、地域の基幹作物としての位置付けを明確にし、地域特性と需給状況の継続的な把握と検討しながら安定成長を目指す。

オ　加工用米・備蓄米

加工用米、備蓄米については、主食用米と同一品種で取り組めるため、中・小規模の農業者でも対応が容易であることから、生産枠の確保を図り、非主食用米の中で需要に応じた作付けを進める。

（３）麦、大豆、飼料作物

麦については、本町の転作における土地利用型基幹作物として産地化を進めており、共同利用施設の整備、実需者に対する安定供給を行ってきた。

また、水田の高度利用を図り、所得の向上を図る観点から、後作にそばを導入し麦との二毛作体系を構築してきており、今後とも、担い手への農地集積、水田の高度利用を進め、生産の拡大を図る。

また、麦の品質・単収が一部、全国平均と比べ低い状況にあることから、排水対策の徹底等の収入増大に向けた取組みをすることで品質・単収の向上に努め、実需者等と播種前契約を行うことにより経営の安定を図る。

大豆は土地利用型作物の中では機械化栽培ができ、また、地域の道の駅や直売所で一定の需要が見込める作物であるため、多収栽培技術等の取組を支援し生産意欲と生産性を高める。

飼料作物については、当町の畜産農家の飼料需要に対し供給が依然不足している状況にあるため、需要に見合った粗飼料作物の生産拡大を推進する必要がある一方、粗飼料作物生産農家に対しては、資源循環型農業の実現を目指し、堆肥の圃場還元による土壌改良や化学肥料の低減など環境負荷の軽減策を積極的に推進し、持続可能な生産体制の構築を図っていく。

また、流通については作付けから販売までの流れが構築されてきており、県・農業団体・地元加工業者・流通業者と連携を図り地場等での消費拡大に努める。

（４）そば

そばについては、麦と合わせて本町の転作における土地利用型基幹作物として産地化を進めており、共同利用施設の整備、実需者に対する安定供給を行ってきた。

また、水田の高度利用を図り、所得の向上を図る観点から、表作に麦を導入しそばとの二毛作体系を構築してきており、今後とも、担い手への農地集積、水田の高度利

用を進め、生産の拡大を図るとともに、担い手以外の作付けも増やすため、基幹作にそばを導入する農業者への支援も行う。

また、そばの品質・単収が一部、全国平均と比べ低い状況にあることから、排水対策の徹底等の収入増大に向けた取組みをすることで品質・単収の向上に努め、実需者等と播種前契約を行うことにより経営の安定を図る

（５）地力増進作物

主食用米の需要減少に伴い、麦・そば・大豆の作付が増加しているが、単収が低下傾向にある。この要因としては、地力低下や連作障害が考えられるため、栽培体系に地力増進作物（ソルゴー、クリムソンクローバー、えん麦、ひまわり等）を組み込み、単収の向上を図る。

（６）高収益作物

ア　産地戦略作物

戦略的に水田を活用した園芸作物の産地を育成するため、市場から要望の高い品目で、水稲農家や集落営農組織でも取り組みやすく、機械化対応が可能である「ねぎ」、「かぼちゃ」、「ブロッコリー」のほか、従来から地域特産物として本町で産地化を図ってきた「なす」、「たまねぎ」について「産地戦略作物」と位置づけ、県等の関係団体と連携して重点的に生産の拡大を図る。

また、作付けに当たり、明渠などの設置により排水対策の徹底を図る。

イ　その他地域振興作物

産地戦略作物以外の地域特産物など、水田の高度利用を図り、所得の向上を図る観点から、農業者が水田の活用を行う作物について「地域振興作物」と位置付け、県等の関係機関と連携して生産の推進を図る。

また、作付けに当たり、明渠などの設置により排水対策の徹底を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	1,539.4		1567.8		1,515	
備蓄米	0.0		0		30	
飼料用米	43.0		37.4		100	
米粉用米	2.0		0.1		10	
新市場開拓用米	4.0		4.3		5	
WCS用稲	9.0		0		10	
加工用米	3.0		0.9		5	
麦	95	0	87	0	105	0
・大麦	95.0		86.8		100	
・小麦	0.0		0.2		5	
大豆	14.0	10.0	3.3	3.0	15	5
飼料作物	12.0		6.7		15	
・子実用とうもろこし						
そば	77.0	71.0	80.0	78	80	
なたね						
地力増進作物	5.0		0		5	
産地戦略作物	12	0	7	0	19	0
ねぎ	3.0		1.2		5	
かぼちゃ	7.0		4.3		10	
ブロッコリー	0.5		0.3		1	
たまねぎ	0.5		0.1		1	
知事特認作物	1.0	0.0	0.8	0	1.5	0
・野菜	1.0		0.8		1.5	
・雑穀						
・その他						
高収益作物	10.0	0.0	11.3	0	15	0
・野菜	8.8		9.5		12	
・花き・花木	1.0		1.6		2	
・果樹	0.2		0.2		1	
・地域で設定した高収益作物						
地域振興作物等 ※産地戦略作物を除く	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・雑穀						
・景観形成						
・その他						
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦（基幹作物）	麦の生産性・品質向上助成	取組面積（ha）	（７年度） 73.3	（８年度） 87
			単収（kg/10a）	（７年度） 208.5	（８年度） 245
2	そば（基幹作物、二毛作）	そばの生産性・品質向上助成	基幹）取組面積（ha）	（７年度） 0.0	（８年度） 2
			単収（kg/10a）	（７年度） 54.0	（８年度） 55
			二毛作）取組面積（ha）	（７年度） 53.3	（８年度） 78
			単収（kg/10a）	（７年度） 52.0	（８年度） 55
3	ねぎ、かぼちゃ、ブロッコリー、なす、たまねぎ（基幹作物）	産地戦略作物助成	作付面積（ha）	（７年度） 4.1	（８年度） 6.9
4	地域振興作物 （別紙3のとおり）（基幹作物）	地域振興作物助成	作付面積（ha）	（７年度） 6.5	（８年度） 11
6	粗飼料作物等（基幹作物） （別紙1のとおり）	資源循環（耕畜連携）	取組面積（ha）	（７年度） 5.0	（８年度） 6
7	そば（基幹作物）	そば作付助成	作付面積（ha）	（７年度） 1.2	（８年度） 8
8	新市場開拓用米（基幹作物）	新市場開拓用米加算	取組面積（ha）	（７年度） 0.0	（８年度） 3
9	新市場開拓用米（基幹作物）	新市場開拓用米の複数年契約支援	取組面積（ha）	（７年度） 0.0	（８年度） 3
			数量（t）	（７年度） 0.0	（８年度） 15
10	WCS用稲（基幹作物）	飼料用米、飼料作物生産性向上助成	取組面積（ha）	（７年度） 1.2	（８年度） 0
	飼料作物（基幹作物）			（７年度） 7.0	（８年度） 12
	飼料用米（基幹作物）			（７年度） －	（８年度） 12
11	大豆（基幹作物、二毛作）	大豆の生産性向上助成	基幹）取組面積（ha）	（７年度） 2.1	（８年度） 0.3
			単収（kg/10a）	（７年度） 77.9	（８年度） 147
			二毛作）取組面積（ha）	（７年度） 0.0	（８年度） 3
			単収（kg/10a）	（７年度） 0.0	（８年度） 147
12	地力増進作物（基幹作物）	地力増進作物の導入支援	取組面積（ha）	（７年度） 0.4	（８年度） 6

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：石川県

協議会名：志賀町農業活性化協議会

整理番号	使途	作期等	単価（円/10a）	対象作物	取組要件等
1	麦の生産性・品質向上助成	1	7,000	（基幹作物）麦	収量増大に向けた取組を行うこと ※概ね1ha以上作付けする担い手が対象
2	そばの生産性・品質向上助成	1	7,000	（基幹作物）そば	収量増大に向けた取組を行うこと ※概ね1ha以上作付けする担い手が対象
2	そばの生産性・品質向上助成（二毛作）	2	7,000	（二毛作）そば	収量増大に向けた取組を行うこと ※概ね1ha以上作付けする担い手が対象
3	産地戦略作物助成	1	7,000	（基幹作物）ねぎ、かぼちゃ、ブロッコリー、なす、たまねぎ	作付面積に応じて支援
4	地域振興作物助成	1	4,000	（基幹作物）地域振興作物（別紙3）	作付面積に応じて支援
6	資源循環（耕畜連携）	3	4,000	（基幹作物）粗飼料作物等（別紙1）	粗飼料作物等生産水田への堆肥散布の取組を支援 ※利用供給協定を締結する農業者又は集落営農組織が対象
7	そば作付助成	1	0	（基幹作物）そば	作付面積に応じて支援 出荷・販売契約を締結していること
8	新市場開拓用米加算	1	0	（基幹作物）新市場開拓用米	作付面積に応じて支援 加工用米等取組計画書を提出すること ※コメ新市場開拓促進事業との重複は不可
9	新市場開拓用米の複数年契約支援	1	0	（基幹作物）新市場開拓用米	令和8年度から新たに結ぶ3年以上の複数年契約に基づき、新市場開拓用米を作付けする取組を支援 ※コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象
10	WCS用稲、飼料作物、飼料用米生産性向上助成	1	4,000	（基幹作物）WCS用稲、飼料作物、飼料用米	・実需者との販売契約を締結していること ・地力向上対策を実施すること
11	大豆の生産性向上助成	1	4,000	（基幹作物）大豆	多収栽培技術等の取組を行うこと ※10a以上作付けし、出荷・販売契約を締結している者が対象
11	大豆の生産性向上助成（二毛作）	2	4,000	（二毛作）大豆	多収栽培技術等の取組を行うこと ※10a以上作付けし、出荷・販売契約を締結している者が対象
12	地力増進作物の導入支援	1	0	地力増進作物	麦、そば、大豆や水稲の栽培体系に地力増進作物が組み込まれていること

（別紙１）粗飼料作物等の対象作物

資源循環の対象となる作物は次のとおり

青刈りとうもろこし
青刈りソルガム
スーダングラス
青刈り麦（らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。）
青刈り稲
[illegible]

（別紙２）利用供給協定に含まれるべき事項

各取組における利用供給協定書は、実施する取組の種類に応じて、次の事項を記載するものとす

１　粗飼料作物等の利用
（１）取組の内容
（２）粗飼料作物等を生産する者
（３）粗飼料作物等を収集する者
（４）粗飼料作物等を利用する者
（５）ほ場の場所及び面積
（６）刈取り時期
（７）利用供給協定締結期間
（８）粗飼料作物等取引の条件（作業分担及び品代・経費の負担）
（９）その他必要な事項

２　資源循環（飼料生産水田への堆肥散布の取組）
（１）取組の内容
（２）牛に供給される飼料作物の種類
（３）飼料作物を生産する者
（４）牛ふん堆肥を散布する者
（５）ほ場の場所及び面積
（６）牛ふん堆肥の散布時期及び量
（７）利用供給協定締結期間
（８）牛ふん堆肥散布の条件（作業分担及び品代・経費の負担）
（９）その他必要な事項

（別紙3）

野菜等

1	アスパラガス	51	中島菜
2	いちご	52	菜花
3	いんげん	53	ニガウリ
4	ウド	54	にら
5	えだまめ	55	にんじん
6	大葉	56	にんにく
7	オクラ	57	はくさい
8	カタウリ	58	パセリ
9	かぶ	59	パプリカ
10	からし菜	60	ばれいしょ
11	カリフラワー	61	ピーマン
12	きぬさやえんどう	62	フキ
13	きのこ類	63	吹立
14	キャベツ	64	藤豆
15	きゅうり	65	プリンスメロン
16	行者ニンニク	66	ほうれんそう
17	金糸瓜	67	まくわうり
18	金時草	68	まこも
19	くわい	69	丸いも
20	ゴーヤ	70	水菜
21	ごぼう	71	未成熟とうもろこし
22	小松菜	72	ミニトマト
23	さつまいも	73	みょうが
24	さといも	74	メロン
25	サニーレタス	75	モロヘイヤ
26	さやいんげん	76	ヤーコン
27	さやえんどう	77	やまのいも
28	椎茸	78	ゆうがお
29	しそ	79	ラッキョウ
30	じねんじょ	80	ラディッシュ
31	春菊	81	レタス
32	しょうが	82	れんこん
33	シロウリ	83	わけぎ
34	シロナ		
35	すいか		
36	ずいき		
37	すぐり菜		
38	ズッキーニ		
39	せり		
40	千石豆		
41	ぜんまい		
42	だいこん		
43	だいこん菜		
44	わらび		
45	チンゲンサイ		
46	とうがらし		
47	冬瓜		
48	とうもろこし		
49	トマト		
50	ながいも		

花き

1	アカパンサス	51	ポインセチア
2	アザミ	52	ホオズキ
3	アスター	53	マイクロ
4	アルケミラ	54	マリーゴールド
5	アワ（観賞用）	55	ユリ
6	インパチエンス	56	らん
7	オーシャンブルー	57	リアトリス
8	オクロレウカ		
9	オミナエシ		
10	かぼちゃ（観賞用）		
11	カラー		
12	キキョウ		
13	キク		
14	キビ（観賞用）		
15	キリ（観賞用）		
16	グニューカリ		
17	グラジオラス		
18	ケイトウ		
19	コギク		
20	コスモス		
21	サルビア		
22	スターチス		
23	ステラ		
24	ストック		
25	スピードリオン		
26	スプレー		
27	センダイハギ		
28	ソリダスト		
29	タマスダレ		
30	ダリア		
31	ダンギク		
32	チューリップ		
33	テッセン		
34	デルフィニューム		
35	唐辛子（観賞用）		
36	とうもろこし（観賞用）		
37	トルコギキョウ		
38	ニューサイラン		
39	ハス		
40	花桃		
41	葉ボタン		
42	ハマナス		
43	ばら		
44	パンジー		
45	ヒオウギ		
46	ビオラ		
47	ヒマワリ		
48	フリージア		
49	ベゴニア		
50	ベニバナ		

花木

1	梅
2	梅もどき
3	エリカ
4	きりしま
5	榊
6	桜
7	サンゴミヅキ
8	ソケイ
9	椿
10	ツルウメモドキ
11	ドウダンツツジ
12	マサ木
13	柳
14	レンギョ

果樹

1	あけび
2	いちじく
3	梅
4	柿
5	キウイフルーツ
6	銀杏
7	栗
8	くわ
9	ざくろ
10	スモモ
12	なし
13	ぶどう
14	ブルーベリー
15	プルーン
16	みかん
17	桃
18	柚
19	りんご
20	レモン